



もり

写真：VRで森林をのぞいてみよう
(環境広場ほっかいどう 2023・記事は 13 面)

北の森林 国有林

今月のトピック

- ・令和5年度 北海道森林管理局 重点取組事項
- ・CLT の紹介

4・5
2023
No. 86



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



令和5年度

北海道森林管理局重点取組事項

【北海道森林管理局のHPもご覧ください】



はじめに

北海道森林管理局では、国有林の多面的機能を持続的に発揮させるための管理経営を行うなかで、民有林を含めた林業・木材産業のグリーン成長に向けて取り組んでいます。

近年、特にカーボンニュートラル、ゼロカーボン北海道に関し、温暖化対策の吸収源対策のひとつとして、森林や木材利用への期待が高まっており、「伐って、使って、植えて、育てる」の循環を確立する必要があります。

また、全国的に短時間強雨の発生回数が増加傾向にある中、森林には、災害防止の役割も期待されています。これらの状況を踏まえ、北海道森林管理局では、次の事項について重点的に取り組み、北海道の林業・木材産業、また、地域の振興に貢献してまいります。

森林の多面的機能の発揮

森林の多面的機能を持続的に発揮するため、森林・林業基本計画に基づき、傾斜等の立地条件、林木の成長等の森林の現況を踏まえ、整備・保全の必要な森林を様々な林種・樹種・林齢からなる森林へ誘導するなどして、多様な森林づくりを進めます。

具体的には、人工林については、その5割が主伐期を迎える中、主に、林地傾斜等の立地条件、植栽木や自然に発生した樹木の生育状況等の森林の現況を考慮し、それぞれの森林に応じて単層林・面的複層林・針広混交林へ誘導します。

また、天然林では、過去の伐採や植付けといった人為を加えた状況等も踏まえ、森林の整備・保全の必要な森林において、現地検討会を行いつつ、多様な樹種・樹齢の樹木からなる持続性のある森林づくりを進めます。

「新しい林業」の推進

効率的な施業を推進する森林において、伐採時の生産性の向上、下刈り作業の回数削減及び新たな機械導入による低コスト化・軽労化に積極的に取り組みます。



乗車式機械による下刈り作業



グラップルレーキによる地拵作業



採種園の路網整備

また、再造林の増加に対応するため、コンテナ苗の利用について安定供給協定量を拡大し、品質・規格が安定している苗木の確保に努めるとともに、種子の供給量の確保のため、採種園整備に取り組みます。

安定供給による道産材の活用推進

道産材への期待が高まっていることから、その需要の拡大と定着のため、木材の供給量を増加させます。また、安定供給システム販



中間土場の整備

売の大ロット化や年間を通して丸太を供給できる中間土場の整備により、一層の安定供給に取り組みます。加えて、トドマツやカラマツの大径材について、安定供給システム販売において建築材への利用を要件とした供給を行い、用途拡大による高付加価値化に取り組みます。

このほか、化石資源の代替によるカーボンニュートラルへの貢献のため、林地残材等燃料用材の供給も行います。

広葉樹資源の安定供給体制の構築

現在、北海道森林管理局による広葉樹の供給は、人工林内に生育する広葉樹が、その整備に伴い伐採されるものが主体となっています。また、広葉樹の加工技術の向上等により、従来は、パルプ用が主であった樹種や中小径木を有効に活用できるようになっていきます。

このような状況から、需要者が求める付加価値の高い用途向けの採材・仕分けを行うことなどによる市場への広葉樹供給に取り組みます。

一方で天然林における広葉樹の蓄積は増加しています。



広葉樹の中小径木も有効利用に向けて仕分け

す。森林の多面的機能を持続的に発揮させながら、将来における広葉樹資源の安定的な供給につながる森林整備の試行に向けた取組を進めます。

安全・安心な暮らしの確保

近年、気候変動により気象災害が激甚化しており、道内においても、令和4年の集中豪雨により大きな被害が発生しています。

このようなことから、流域治水プロジェクトと連携

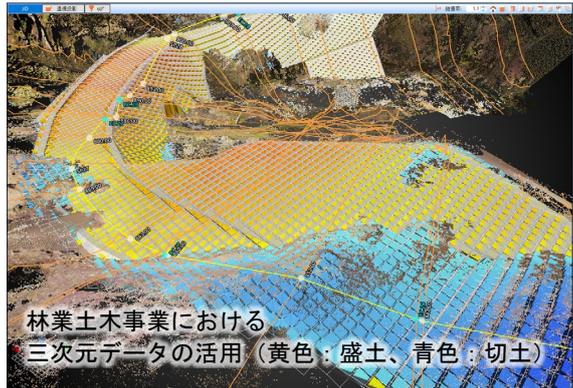


令和4年 新冠町内における山地災害

した流域保全対応の治山対策の強化、森林の防災・保水機能の発揮のため、山地災害危険地区や重要なインフラ周辺箇所等地域の要望に応じた治山施設の整備を推進します。

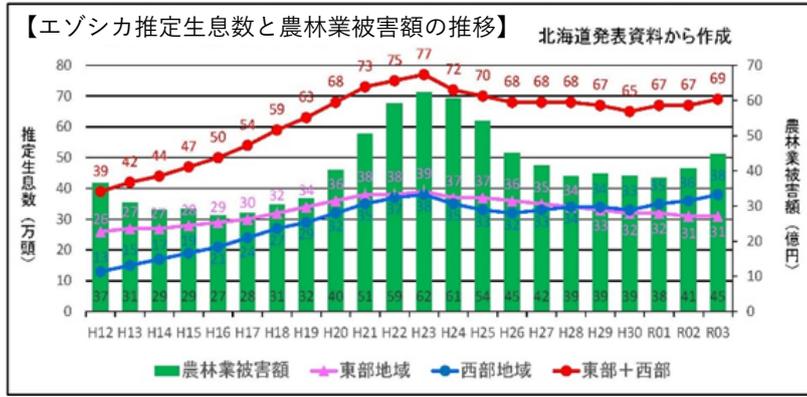
また、同時多発化する災害への対応が必要になる中、森林土木工事の現場では、高齢化や人手不足が顕著になっています。

このため、ICTの活用や、簡易な工法、工期を短縮できる工法の採用等により軽労化、効率化を進め、森林土木分野での事業実施の円滑化を図ります。



林業土木事業における三次元データの活用(黄色:盛土、青色:切土)

エゾシカによる被害の低減



北海道内のエゾシカによる農林業被害額は、ピーク時よりは減少しているものの近年は、横ばいからやや増加傾向となっています。また、エゾシカの被害は、農林業はもとより、森林生態系への影響や交通事故の



増加など地域社会へも大きく影響している状況です。

このような状況に対応するため、市町村等の要望に応じ、国が林道を除雪し市町村が駆除を行う連携捕獲や捕獲フィールドとしての国有林野の提供、ワナの貸し出し、情報共有など連携強化を図ります。また、職員によるくくりワナの設置、狩猟者への情報提供なども行います。

加えて、広い森林地域での捕獲は、効率的に行う必要があることから、IoTやAI



の導入、大型囲いワナの普及など、捕獲の効率化・省力化に取り組みます。また、ジビエ活用が可能な地域においては、積極的に囲いワナによる生体捕獲にも取り組みます。

このほか、エゾシカの被害の実態調査や、エゾシカによる森林の育成への影響が懸念されるため、エゾシカの侵入防止柵を設置し、影響の調査を行います。

アイヌ文化の振興

アイヌ文化の伝承、普及、振興に必要な森林資源は、確保しにくい状況になってしま

す。このため、アイヌ文化を象徴し、アイヌ文化の伝承に必要な自然素材を持続的に採取できる森林づくりに取り組みます。併せて、森林づくりにおける病虫害対策の試験やアイヌ文化を体験するための森



令和4年度までにアイヌ文化の振興に必要な林産物の採取のため、4市町とアイヌ共用林契約を締結



林の活用など、地元市町村や関係機関と連携した取組を行います。



北海道森林管理局では、これらの取組のほか、様々な事業の実施を通じて、森林吸収源対策や生物多様性の保全の推進、さらには、持続可能な地域社会の実現に向け、取り組んでまいります。

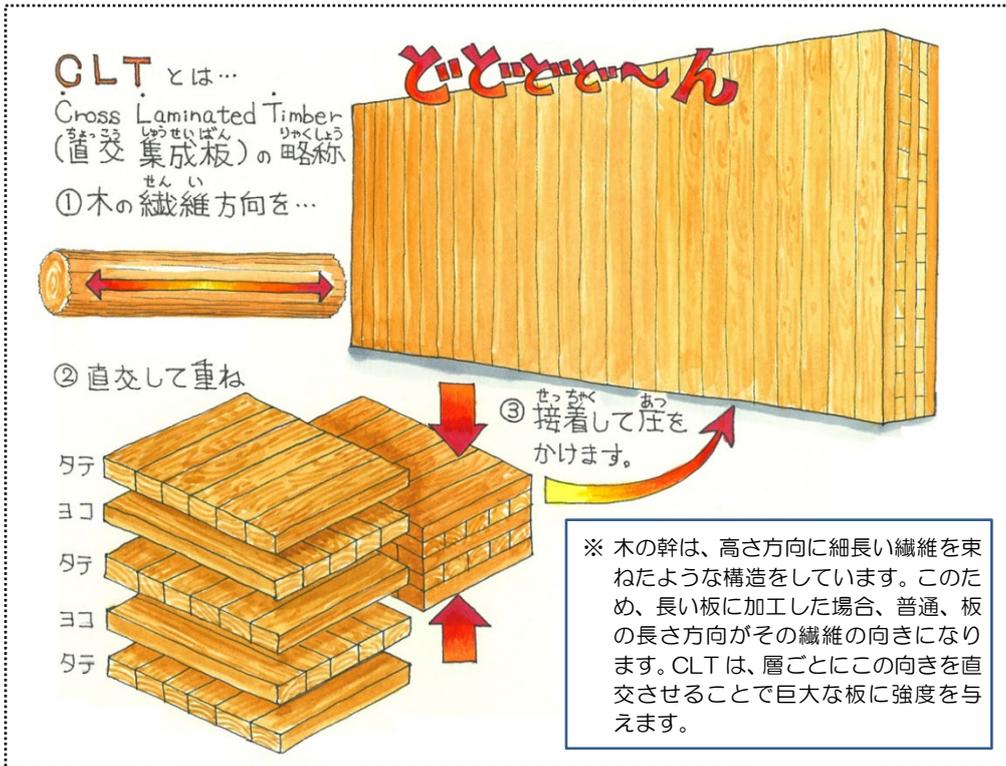


CLT を活用した庁舎建築の取組

廉舞森林事務所

石狩森林管理署

経理課



CLTは、欧米を中心にマンションや商業施設などの壁や床として普及しており、我が国においても国産CLTを活用した中高層建築物等の木造化による新たな木材需要の創出に期待が持たれています。

CLTのメリット

CLTを使用することで次のようなメリットが期待されています。

施工が早い

コンクリートのような養生期間が必要なく、また工場でCLTパネルの製造・加工が行われるため短期間で施工ができます。

軽い

コンクリートと比べ軽く基礎工事の簡素化ができます。

断熱性が高い

同じ厚さのコンクリートと比べ断熱性が高くなっています。

CLTの活用

CLTは、木材の使用量が比較的多くなり、都市(まち)における温室効果ガス(二酸化炭素)の貯留にも貢献します。

北海道森林管理局では、このようなCLTを積極的に使用した庁舎づくりを進めており、近年では、森林事務所の新築において、北海道産のカラマツのCLTを活用しましたので紹介します。



石狩森林管理署

銀山森林事務所

- ・令和元年度建築
- ・木造平屋在来軸組工法
- ・延床面積 65㎡
- ・事務所柱、車庫壁面にCLTを活用。

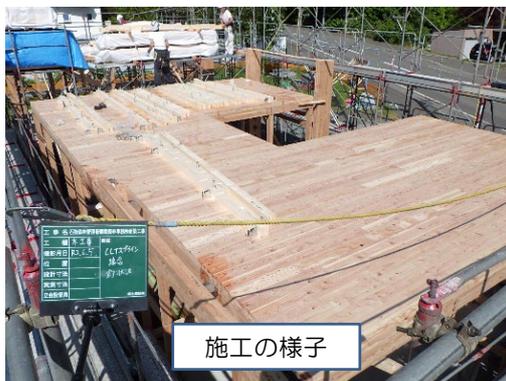
石狩森林管理署

簾舞森林事務所

- ・令和2年度建築
- ・木造平屋在来軸組工法
- ・延床面積 65㎡
- ・事務所柱・天井にCLTを活用。



事務室天井にCLTを活用



施工の様子

胆振東部森林管理署

むかわ合同森林事務所

- ・令和4年度築
- ・木造平屋在来軸組工法
- ・延床面積197㎡
- ・事務所天井・車庫柱にCLTを活用。



車庫柱にCLTを活用



施工の様子

今後に向けて

CLTのデメリットとして大きなものは、鉄筋コンクリートや鉄骨造りに比べ材料費が高いことです。

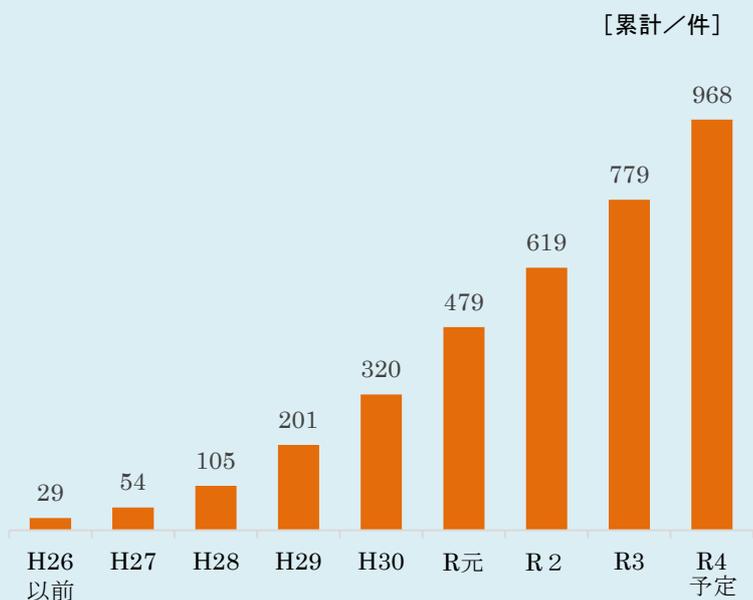
また、まだまだ我が国ではCLTパネル工法の経験のある建築士や施工会社、製作工場が少なく、接合方法や立て方が完全には確立していないなどの課題が残っています。

このような課題の克服のためにはCLTが広く普及し使用機会が増えていくことが重要だと考えております。

このためにも、庁舎へのCLTの積極的な活用を今後も目指していきます。

木の板は、方向（繊維の向き）によって強さが異なります。繊維の向きをそろえると集成材、繊維の向きを直交させるとCLTになり、用途に応じて使い分けれます。

CLTを活用した建築物の竣工件数の推移



内閣官房発表データを加工



CLTパネル



CLT材

提供：一般財団法人日本CLT協会

【空知森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



現庁舎

夕張岳（一、六六八m）、芦別岳（一、七二七m）を主峰とし、空知川、幾春別川、夕張川等の集水域となる山地で、トドマツ、エゾマツ、ミスナラ、カンバ類等が混交する天然林を主体とし、一部トドマツ、アカエゾマツ等の人工林で構成されています。また、石狩平野には、防風保安林が格子状に配置されています。

【現庁舎の変遷】

空知森林管理署は、岩見沢市に所在し、石狩空知森林計画区の夕張山系地域の6市5町に広がる、約16万4千haの国有林野の管理経営をしています。

昭和5年の岩見沢市街地図によれば、岩見沢市4条東2丁目に現在の森林管理署にあたる「森林事務署」が記載されており、昭和7年に木造平屋で新築されました。時代が流れ昭和

22年に、営林署になってからも同じ場所にあり、昭和33年には増築されました。しかし都市化とともに狭隘となり昭和39年に現在の岩見沢市三条東一七丁目に移転新築、さらに建物の老朽化により平成17年に空知森林管理署を新築し、現在に至ります。

【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、北海道産のトドマツ、カラマツなどの針葉樹やナラ、カンバなどの広葉樹を一〇〇%使用し、木の良さを十分にいかしたつくりとなっています。岩見沢市は道内有数の多雪地帯であることから、雪対策を重視した設計となっており、屋根等は落雪方向を考慮し、ポーチ・階段・スロープは降雪時の利便性に配慮しています。執務空間である事務室は、家具等の配置の自由度を高めるために、構造用集成材を使用した無柱の設計となっています。

ます。木製の事務机が配置されるとともにフロア全体を見通せるようになっていきます。署長室の床にはナラ材を用いて重みのある雰囲気を作り出し、廊下の内壁はシナとカンバで作られています。



カラマツ集成材の梁

【玄関ホール】

明るく温かみのある正面玄関ホールの開閉部は断熱性に優れた構造になっており、訪れる来客者の方に木材の良さを感じていただくためのスペースになっています。空知森林管理署の概要をはじめ、広報誌や各種

パンフレットや冊子など手に取っていただきやすいように配置しています。

その他展示用ショーケースの中には「花台」「ティッシュボックスケース」「ネクタイピン」など往時に在職していた職員手製の木製品が多数並べられており目を楽しませてくれますので、お立ち寄りの際はぜひご覧になっていただきたいと思えます。

これからも地元で愛される地域の森林・林業の活性化に貢献できる森林管理署として、理解を得られるよう取り組んでいきます。



庁舎内玄関の「ショーケース」

【留萌南部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！

留萌南部森林管理署は、留萌振興局管内南部の1市3町（留萌市・増毛町・小平町・苫前町）を管轄し留萌市内に所在しています。国有林の管理面積は約9万2千haあり、1市3町の区域面積の約52%、森林面積の約61%を占めています。



新築当時の現庁舎

最南部に位置する暑寒別岳を中心とする地域は、豊かな高山植物や優れた山岳景観を有しているため、暑寒別天売焼尻国定公園に指定され、夏には多くの登山客や観光客が訪れていました。

【森林管理署の変遷】

旧庁舎は、「旭川営林局留萌営林署」として新築されました。

平成11年に留萌営林署と達布営林署及び古丹別営林署の3営林署が北海道森林管理局旭川分局留萌南部森林管理署として統合され、さらに平成16年4月に北海道森林管理局留萌南部森林管理署となりました。国有林のアカエゾマツやトドマツをふんだんに使用

した旧庁舎は、57年間に渡り留萌の風雪に耐え抜きましたが、老朽化が進んだことから現在の場所に移転・新築されました。

【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、平成22年3月に竣工し13年が経過しています。木造2階建てで延床面積は485.7㎡。道産のカラマツ、トドマツ、シラカンバ、ヤチダモなど約109㎡の木材が使われています。柱・梁にカラマツ大断面集成材、床フローリング及び腰板は全面シラカンバ、階段はタモ材を使用するなど署内に木の香りとぬくもりが感じられ「木の良さ」について、多くの人に認識を深めていただける木造建築となっています。

1階には会議室・書庫・休憩室・トイレ等が配置され、会議室・トイレ・玄関ロビーはバリアフリー化されています。また、1階の階段前には間伐材の有効活用と地球環境に優しい「木

質ペレット」を燃料とするストーブを配置し、木材利用のPRに一役買っています。

2階には署長室・執務室及び森林事務所を配置しています。執務室はスペースを有効に使用できるような強力柱を廃した開放感のあるものとなっています。

執務室内は既製の鉄製ロッカーではなく、シナ材で製作された書棚が壁に備えつけられたことで、統一感があり木に包まれ暖かさを感じられるつくりとなっています。



執務室

また、大きな断熱二重ガラス窓を南北側の壁に配置することで自然光が全体的に入り込むようになっていきます。さらに、寒冷地対策として、高密度断熱材により結露対策が施されているので、執務室は灯油ストーブ2台で厳冬期も快適に過ごすことができます。

また、大きな断熱二重ガラス窓を南北側の壁に配置することで自然光が全体的に入り込むようになっていきます。さらに、寒冷地対策として、高密度断熱材により結露対策が施されているので、執務室は灯油ストーブ2台で厳冬期も快適に過ごすことができます。



柱や梁は道産の大断面カラマツ集成材

【地域に貢献できる森林管理署をめざして】

最後に、これからも地元愛され地域の森林・林業・林産業の発展や活性化に貢献できる森林管理署として、地域から応援していただけるよう取り組みを進めていきます。

センター通信



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターです。当センターで行っている森林環境教育は、これからの約半年、月2回〜3回開催しておりますので、ここでその一部を紹介いたします。



樹木博士認定常設コース案内板

樹木博士認定会

樹木博士認定会は、樹木の名前や識別方法を学習することをきっかけとして森林に親しんでもらうことを目的としたアウトドア活動プログラムのひとつです。

当センターでは常設コースを設定しており、認定会では、参加者に樹木ガイドブックを事前配布します。当日は、学習コースをガイドブック片手に講師の説明を聞きながら、樹皮や枝葉

を触りながら識別方法を学習し、樹木の名前を覚えていきます。



講師より説明を受ける受講生

次にテストコースを回り、20種類の樹木を観察し、特徴を思い出しながら解答用紙に記載していきます。

正解数に応じて段・級の位を決定し、樹木博士認定書が授与されます。

これまでに、延べ2,734名の参加者に、樹木博士の称号が付与されています。

令和4年度は、予定した4回の開催ができ、6歳から77歳と幅広い年齢層の方々56名の参加をいただきました。コロナ前の活気を取り戻しつつあり、当センタースタンプも安堵しています。

今年も西大沼の常設コースにおいて6月から9月の第一日曜日に4回の樹木博士認定会を予定しております。森林と触れ合うきっかけとして、多くの方の参加をお待ちしております。「樹木ガイドブック」は左の北海道森林管理局ホームページよりダウンロードできます。
https://www.rinyamaf.go.jp/hokkaido/komagatake_fc/yousa/index.html

森林（もり）づくり塾

森林ボランティア活動への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となり得る人材育成を目的と



令和4年度第3回森林づくり塾「砂坂海岸林」での様子

した「森林づくり塾」を開講し、塾生を公募しています。

令和4年度は、12名の参加があり、「枝打ち体験」「海岸林見学会」「カミネッコンによる植付体験」などをとおして、森林の役割や森林づくりの基礎を学んでいただきました。



令和4年度第4回森林づくり塾「カミネッコン」による植樹

また、渡島総合振興局の「森への誘い講座」と連携し、共同開催や相互参加型の講座も実施しています。

今年も、共同開催を含め5回の開催を予定しておりますので、ご応募いただけます。

参加をご希望される方、森林ボランティア活動などに興味をお持ちの方は、当センターにお気軽にお問い合わせください。

こんにちは 森林官です!

上川北部森林管理署
佐久森林事務所
首席森林官 安達 尚樹



佐久森林事務所 職員



【中川町の紹介】

中川町は上川管内の最北端に位置し、森林は総面積85%を占め、国有林が森林面積の67%と木材関連を主要産業に経済の中心としてきた町です。

アンモナイトを中心とする化石の産出地として有名で考古学者や大学の研究目的での来町者も多く自然詩博物館のエコミュージアムセンターにはたくさんさんの採掘物があり見応えのある施設になっています。



温泉施設

また、カヌーでの川下りやサイクリング、キャンプのできる施設の周辺には筒型の温泉ホテルがあり、観

光にも力を入れている町でもあります。

【佐久合同森林事務所の紹介】

佐久合同森林事務所は中川町の佐久地区にあります。管轄面積は佐久・大和・共和・奥板谷の4担当区で約3万5千ha、北は幌延町付近から南は朱鞠内湖付近までの南北に直線で約70kmに渡る区域を職員3名で管理しています。



事務所前にあるストックヤード

中川町との取り組みとして、共同施業団地の区域を設定しています。そこから出る丸太を用途別に分けて販売するために共同土場

(ストックヤード)を整備するとともに、森林整備の推進に取り組んでいます。年間の仕事としては、春から夏にかけては林道点検や路体強化工を行いつつ、請負事業の監督を主な仕事にしています。下刈り箇所においては請負業者と連絡を密にし、出来高確認や技術的指導も行っています。秋から冬にかけては境界の調査や地況林況調査を実施しており、特にスノーモビルで往復60kmも山奥に入り、今後の間伐に向けた林内の状況を把握することはやりがいのある仕事と感じています。



現場に向かう河川にある奇石

【アベシナイ風景林】

事務所の近くにはレクリエーションの森として、アベシナイ風景林があります。令和2年〜3年にかけて中川町が眺望点へのアクセス路を整備し、天塩川と安平志内川が合流する雄大な風景を眺望できる森となっています。

おわりに

私が当事務所に来て2年がたちましたが、森林官歴17年の経験を生かし、現場で山の声を聞いて施業に反映することを後進の若い職員に伝えたく首席森林官になりました。現場へ足を運んだ際には、それぞれの土地にあった更新を考えながらの森づくりをし、針葉樹も広葉樹も供給しつつ、林分の施業のあり方をしっかりと熱い思いで若手職員に伝えながら業務を遂行していきたいと思えます。

こんにちは 森林官です!

網走南部森林管理署
東藻琴森林事務所
首席森林官 長崎 隆憲



東藻琴森林事務所 首席森林官



森林事務所の所在地と概要

東藻琴森林事務所は北海道北東部のオホーツク総合振興局管内南部の大空町東藻琴に所在し、大空町と美幌町の2つの町の合わせて約1万3千haの国有林を管轄しています。

大空町は、平成18年3月に女満別町と東藻琴村が合併して誕生した町で、オホーツクの観光と産業の空の玄関口である女満別空港を擁し、全国「自然100選」に輝いた藻琴山、春になると鮮やかなピンク色に染まる東藻琴芝桜公園など豊かな景観に恵まれた町です。



東藻琴芝桜公園



春の藻琴山

美幌町は大空町に隣接し、農業を基幹産業とした町で、地名の由来は、多くの清流が合流して水量が豊富なところをアイヌ語で「ピ・ポロ川水多く・大いなる所」といい、これが転訛して「ピホロ」となりました。その名のとおり美幌町には美幌峠を源とする美幌川のほか数多くの美しい川が流れています。また標高525mの美幌峠展望台からは、日本最大のカルデラ湖である「屈斜路湖」そして今なお噴煙を吐く「硫黄山」また遠くには知床連峰や大雪の峰々が連なる壮麗なパノラマが広がっています。その美しい景色を求め毎年多くの観光客で賑わって

おり、条件が良ければ早朝に雲海も見られます。



美幌峠からの屈斜路湖

森林官の業務

東藻琴森林事務所では、大雨や暴風による山崩れや風倒木などの山林被害の確認、事業を行う上で欠かせ



地況林況調査風景

ない林道や作業道に異常が無いかの確認などの巡視を行うほか森林の伐採・植え付け・保育作業などの請負事業の監督業務、森林の成長量を調査し、今後の森林施業の計画を作成するために必要な地況林況調査などを行っています。

おわりに

健全な森林は良質な木材を生産するだけでは無く、雨水を貯え、洪水を防止したり、土砂の流出や山崩れなどを抑える役割も果たしています。

そのほか、私たちの生活に安らぎや潤いを与えてくれるレクリエーションの場や様々な生物の貴重な生息場所となり、そのような健全な森林を増やすため、私たちは仕事を行っています。森林事務所の仕事は多岐にわたり、ほぼ毎日森林の中で仕事をしています。

皆さんの目に触れられることがほとんどありませんが、豊かな自然・森林を守り、引き継いでいくためにも、日々業務に取り組んでいきたいと思えます。

もりの森の話

第25話
網走西部森林管理署
阪本 海

若手職員のコーナーです。

私は、大学生の時に木材の化学加工について研究していました。

森林や樹種についてより木材の化学加工に使用する化学薬品を知っている学生でした。

本稿では、そんな山のことをほぼ知らなかった私が、森林事務所の業務を通して感じたことを中心にお話したいと思います。

【森林事務所について】

まず、私の森林事務所について簡単に紹介します。

網走西部森林管理署白滝森林事務所の管内には、登山者から人気の「平山」(標高一七七m)があり、地元の貴重な観光資源となっています。登山初心者の私でも楽しく登れました。

また、白滝は日本有数の黒曜石産地として有名です。実は、白滝で出土した黒曜石の石器等が、日本最古の国宝に指定される見込みとなり、新たな観光資源としてより一層注目されています。



平山頂上から見える大雪山系

【山に入ってみて】

昨年度森林事務所に着任した当初、造林地に一部急傾斜地で植えても育たないと思われる箇所にあえて植栽していかなかったり、非常に大きなカンバが伐られずに残っていたりするのを見て、先人たちが工夫して施業されていたんだなと感じたことを覚えています。時間を超えて、そこに確かにいた先人の想いをくみ取ることが、林業ならではののおもしろさだと思います。

また、造林地までの道中で、土場跡地に繁茂するハンノキや朽ちた木が倒れている様子、死んだ動物に群がる力

ラス等を見て、月並みな表現ですが、全部つながっているんだなあと、ある種畏敬の念を抱きました。

日々の業務に話を移すと、昨年度は地況林況調査で山に入ることがほとんどでした。前述のとおり、白滝は黒曜石の産地ということもあり、岩盤がむき出しの場所が多くあります。さらに、造林地には大雪山系から冷たい風が吹き下ろすため、植栽木の成長が遅く、伐採するにはあまりに細い木がたくさんあります。



現場で見つけたタモキノコ

【小径木は日の目を見ないのか】

そんな現状を見て、私は大時代の研究を思い出しました。当時行われていた研究の一つに、木材成分からフラ

ン化合物を効率的に得る研究がありました。

このフラン化合物は、燃料や医薬品、樹脂等の基幹物質です。これらは、現在石油から生成されているため、木材が石油の代替資源となり得ることになります。また、フラン化合物は単価が高いことも特長の一つです。

現在白滝森林事務所の植栽木は径級の小さいものが多く、伐採判断の難しい箇所が多いですが、それは植栽木を木材として利用することが主であるからだと思います。例えば、単価の高いフラン化合物の原料として細い木の需要が生まれれば、新たな林業の形が見えるのではと半ば夢物語かもしれませんが、ぼんやり考えています。

【最後に】

日々の業務ではいまだに樹種の判別に苦戦している状況です。夢物語だけではなく、目の前の業務に丁寧に取り組み、幅広い知識を身につけていきたいと思っています。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

林野火災空中消火訓練を行いました



【渡島森林管理署】

渡島森林管理署では、令和5年4月17日に林野火災空中消火機材の使用訓練を実施しました。

雪が解け、気温が上昇し空気が乾燥する3月から6月は、林野火災の危険期間です。このため、いざという時に迅速な消火活動ができるよう、毎年この時期に空中消火機材の使用訓練を行っています。

当日は、渡島総合振興局、檜山振興局、八雲町、長万部町、今金町、七飯町と当署の職員、あわせて45名が参加しました。訓練は、八雲町消防本部のみなさんの指導を受けながら消火ポンプ・消火薬剤攪拌機とヘリコプターに吊り下げて消化剤を散布するバケツなどの使用手順などを再確認した後、実際に機材を稼働させ、給水～消火薬剤調合～散布バケツへ注水という一連の作業を行い、練度を高めました。

VRで北海道の森林をのぞいてみよう



【総務企画部 企画課】

北海道森林管理局は、令和5年4月15～16日の2日間、札幌ドームで開催された「環境広場ほっかいどう2023」に出展しました。

このイベントは札幌市で開催された「G7 札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」を記念し、環境問題やSDGsに関心や興味を持ってもらうことを目的に開催されました。

北海道森林管理局のブースでは、トドマツ人工林、針広混交林、ミズナラ天然林の3種類の360度画像をVRゴーグルに取り込みそれぞれの森林の姿の違いなどを来場者に「体感」してもらいました。また、本物のトドマツの幹や枝葉を用意し、実際に触ったり香りを試したりと、北海道の森林を様々な方法で感じてもらいました。

岩見沢市立志文小学校 & メープル小学校の森林教室



【空知森林管理署】

令和5年3月8日と9日、2日間にわたり利根別自然休養林で岩見沢市立志文小学校とメープル小学校3年生2クラス(47名)を対象に森林教室を行いました。

最初の活動は、森林に興味を持ってもらうため、遊歩道沿いにポイントを設定し、「樹木の冬芽」、「針葉樹と広葉樹」、「木の年輪」、「ヤドリギ」などをテーマにグループに分かれて森林クイズを行いました。次に、木の太さを測る体験として、1人1本ずつ自分の好きな樹木を選び、輪尺を使用して測ってもらいました。元気の良い子供たちは走ったり寝転んだりしながら、雪の上に落ちているヤドリギやツルアジサイの花序を宝物のように拾っていました。

幌加内町観光協会「冬の三頭山 森林魅力発見ツアー」に協力



【北空知支署】

令和5年3月11日(土)幌加内町観光協会主催の「冬の三頭山 森林魅力発見ツアー」に空知森林管理署 北空知支署職員が森林ガイドとして協力しました。

この企画は、令和3年度より幌加内町役場・観光協会・山岳部・北空知支署の4者で取り組んでいる「三頭山協働型登山道整備」のなかで、地域住民や訪れる観光客への利用促進に向けた取組として検討したものの一つです。

ツアーは、登山口周辺にて、冬の森の知られざる魅力を紹介後、道の駅物産館に移動し、そばの町ならではのそば粉の生地を薄く焼いたガレット作りを楽しんでもらいました。



「2023 リン子とルンルン 海の森づくり（植樹祭）」の開催について



- 主催：えりも岬緑化事業 70 周年記念行事実行委員会
- 開催場所：北海道幌泉郡えりも町字えりも岬百人浜展望台
- 開催日時：令和 5 年 5 月 17 日（水曜日）午前 10 時～12 時頃
※雨天決行、荒天中止
- 開催内容：開会式、植樹など（司会進行役 2023 ミス日本みどりの大使）
一般者の参加も可能です。
詳しくは、<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/square/topics/2022/erimo70.html>



もり
広報 「北の森林 国有林」 4・5月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
IP電話 050-3160-6300
電話 011-622-5213

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

📌 今月の木 「ナナカマド」 📌
今月はナナカマドのイラストを表紙の月
数字の横に掲載しました。
花言葉は「安全・慎重・用心」であるこ
とから交通安全の願いを込めて街路樹とし
て植えられています。
詳しくは、ホームページの
「北海道の木のえほん」
をご覧ください。



今月の表紙